

きらり チームほおの木

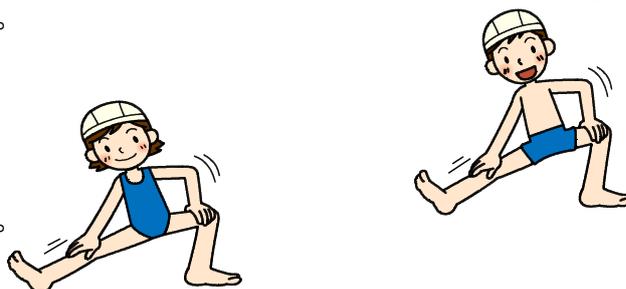
<笑顔いっぱい 元気いっぱい 夢いっぱい>

令和2年6月30日(火)
文責 伊藤 博子

水泳学習始まる

気温が30度を超える日が多くなってきました。10日には、放送でプール開きを行いました。水泳は、命の学習だと思っています。泳ぎ方、浮き方をちゃんと身に付けば、いざというときに自分の命を自分で守ることができます。しかし、プール使用の約束を守らず勝手なことをしていると、大けがをするばかりか、命にかかわる事態になることもあります。学校では、6つの約束を決めました。

お 押さない 友達を押したりしない。
か 駆けない プールサイドは水で滑りやすくなっているので、ゆっくり歩く。
し しゃべらない 飛沫をとばさない。
ふ ふざけない ちょっとしたふざけが大きな事故につながる可能性があります。
や 約束を守る みんなで楽しく活動できるように。



せ 先生の話をよく聞く 大事なことを聞き漏らさないようにする。

また、今年度は新型コロナウイルス感染症予防のため、いつもより隣の人との間を開け、できるだけ密にならないようにしています。

人は、水深15～20cmのところでもおぼれます。また、最近は、おぼれてパニックにならずに静かに沈んでいく「ノーパニック症候群」があるそうです。一瞬たりとも目が離せません。複数の目で子どもたちを見て、安全に活動できるように気をつけていきます。

「今朝のできごと」

先日、喜多方第一中学校の校長先生から、お便りが届きました。内容をご紹介します。

「今朝のできごと」

今朝は小雨が降っていました。私は、喜多方一中正門前で、行き交う生徒や児童を迎えていました。二小の児童も元気なあいさつをしてくれます。

メガネをかけた小さな女の子が、一中前の横断歩道を渡りました。渡りきったところで、なぜかその子は足を止めました。そして後ろを振り返りました。誰かを待っているようでした。私は、その子に近寄り、「誰か待っているの？」と聞きました。すると、小さな声で、「友だち。」と答えました。そしてまたじっと待っています。学校に遅れては大変と思い、「一緒に迎えに行こうか。」と声を掛けました。女の子がうなずいたので、二人でその友だちの家に向かいました。

家の人に私から事情を説明しました。その子の友だちは、学校に行くのがちょっと遅れてしまったようです。家の方は申し訳なさそうに「先に行っていていいよ。」と言いました。女の子は困った様子でした。「今、家の裏のほうにいるから、行ってみる？」と家の方が言うと、女の子は一人で裏のほうへ行きました。すると、すぐに傘をさした二人が並んで出てきました。そして仲よく学校に向かって歩いていきました。

私は、傘をさして並んで歩く二人の後姿を見て、静かな感動を覚えました。女の子がその友だちにどんな言葉をかけたのかはわかりませんが、その女の子の友だちを思う心の温かさが、ちゃんと相手に伝わったのだと思いました。

この女の子のようなやさしい心をもつ児童が早く喜多方一中にはいてくれることを願います。

※原文に一部変更有

ここにもほおの木っ子のすばらしさが、武田校長先生、見つけてくださってありがとうございます。